



# グ ロ ー バ ル ガ ー ナ

前はICANNの「改革案」の是非を問い、皆さんに「会員登録」を呼びかけた。会員数は600人を超えたが、この重要性を考えると決して多くない。残念ながら、会員制度に寄せられている関心はその程度なのだろうか。改めて、「ICANN会員登録」の「Register Here」というメニューからぜひ会員登録をしていただきたい。

 [www.icannatlarge.com](http://www.icannatlarge.com)

存在そのものを問うガーナのICANN会議

今年最初のICANN会議は、3月上旬、アクラで開かれた。ICANNは名実ともにグローバルな組織とすべく、アフリカでの開催も99年のカイロに続いて2回目だ。

アフリカの最貧地域である西アフリカのガーナは、「アフリカに来た」と強く実感させられる。赤道直下、猛烈に暑い。林の多

い風景も特徴的だ。なによりも目に付くのは貧しさだ。家も人々の暮らしも、少なくとも物質的にはとても粗末だ。タクシーは20年くらい前の車が多く、ガラスがなかったり、穴が空いたりしているのはあたりまえ。夜の町はとても暗い。その暗い道を猛スピードで車が飛ばす。信号はたまにあるだけ。事故も珍しくない。

一方、ICANN会議はビーチに面した「白人向け」リゾートホテルが会場だ。素晴らしいプールがあって、長期滞在向けだ。このコントラストは赤道直下の太陽光線と同じくらい強烈だ。

いまICANNでは、組織のあり方をめぐり議論が進んでいる。会員制度だけでなく、そもそもICANNとは何を目的とする組織で、誰がどうかかわるべきかという、基本をめぐり問いた。スチュワート・リンCEOの突然のICANN「改革案」に端を発した



上：会員制度や改革について議論するDNSOの総会。  
下：アクラ会議に欠席したカール・ビルトALSC委員長（前スウェーデン首相）

I C A N N の あ る べ き 姿 を 探 る

## [第8回] ガーナの熱い風 「改革」の行方 会津 泉



photo : Tsushima Takao

# ナ　ン　ス　の　夜　明　け

形だが、設立3年半を過ぎ、当初の想定と実態との食い違いが生じ、その是正が避けて通れなくなったものと言える。

## 否定された会員選挙

ICANNの会議は通常4日間だ。最初の2日は分野別の討議が展開される。3日目は「パブリックフォーラム」で、CEOに始まり支持組織(SO)や政府諮問委員会(GAC)などの代表が個別報告を行い、壇上に陣取った役員を前に、誰でも自由に発言できる。4日目の役員会は公開だが、一般参加者は傍聴のみで発言は許されない。

結論から言うと、最大の焦点だった「会員制度」と「選挙」について、役員会はリン提案を追認し、一般ユーザーがICANNに参加する意義は認めたが、グローバル選挙は否定し、他の方法を選ぶと決定した。

役員会が任命した「会員制度調査委員会」(ALSC)は、選挙の実施を答申したが、「グローバル選挙は不正防止が難しい」などの理由で葬られた。ALSCのコステロ副委員長は公開の席で、「これはCEOによる『宮廷クーデター』だ」と、リン氏の企てを

激しく非難した。無理もない。ビルト前スウェーデン首相を委員長とするALSCは、前回ロサンゼルス会議で役員会から選挙の実施準備を依頼され、任期を延長して活動を続けたのに、その結論が土壇場になって否定されたのだ。「身内」に裏切られ、背後から狙撃されたようなものだ。ビルト氏はプライドを傷付けられ、アクラに来るのさえ拒否したという。

5大陸のNGO、研究者が自発的に結成したNAISは、ICANN執行部に批判的で、ALSCの対抗勢力と見られていた。そのNAISが「現実路線」をとり、ALSCとの合意を成立しようとしたことが、リンCEOや本部スタッフの危機感を煽ったようだ。

## 選挙と「改革案」への温度差

役員会ではリン改革案も審議した。事前にリークされた原案では、リンCEOに具体案を詰めて次回6月のブカレスト会議の前までに提案することを命じる内容だったが、これまでの「再編委員会」を「進化・改革委員会」に改名し、リンCEOではなく、この委員会が広く意見を集めて具体案を提

案するように修正、決定された。

議論を聞いていて役員たちの「温度差」が伝わってきた。「グローバルにオープンな選挙は問題が多すぎる」というのが大勢だが、実際に選挙で選ばれた役員でも意見が割れ、選挙を支持したのは、アメリカのカール・アーレバック氏とドイツのアンディ＝ミュラー＝マグーン氏の2人で、日本の加藤幹之氏、ブラジルのイバン・カンボス氏、ガーナのニイクエイノ氏は、いずれも「選挙が最善の方法とは限らない」とした。

選挙は不正の恐れが高くまったく認められない」という全否定論と、「いずれ条件が整えば選挙も考えてよい」という一部肯定論と、意見にも開きがあった。誠意あふれる発言と、表層的な発言での取り繕いとの違いもよく伝わってきた。

アジアから選挙で選ばれた富士通の加藤氏は、役員会で大要こう発言した。

「会員制度と選挙は、とくに選挙で選ばれた役員として非常に難しい問題と受け止めている。自分は会員選挙で選ばれたことを誇りにしている。選挙のおかげで、自分を選んでいただいたアジア太平洋の人々と気持ちのつながりを感じている。率

直に言うとう選挙が最善の方法とは思えない。選挙以外の方法でも高い資質を持つ役員を選ぶことは可能だ。現時点での選挙には問題が多く、今はICANNの組織強化や資金集めに集中すべきだ。いずれ選挙を再検討するべきときもくるだろう。」

ただし、「選挙以外の方法」はとくに触れなかった。日本の政府や企業による「組織ぐるみ選挙」の弊害の指摘に答えたと言えそうですが、割り切れないものが残る。ルールを整備すればグローバルな選挙は十分可能だというのが私の意見だ。

統一管理か、自律分散か

選挙ではなく設立当初の役員に選任

された慶応義塾大学の村井純教授は、この問題ではほとんど発言はしなかった。ただし、最後にリン改革案について採決したとき、彼1人が賛成の挙手をしなかったことは注目される。リン提案は現在全世界13か所に分散配置されているドメイン名システムの大本のルートサーバーを、契約関係を固め、資金も政府から提供してもらい、ICANNの傘下に従えようという内容だ。村井氏はそのルートサーバーについての委員会の委員長として、現状の分散システムによる柔軟さと多様性を保つほうがよいと考え、それを否定する提案に賛成できなかったのだろう。これは、一見マイナーな問題に思えるかもしれないが、非常に重要な点を内包している。「集中・統一・管理」がよい

のか、「自律・分散・協調」がよいのかという、インターネットの基本理念にかかわる問題だ。

同時多発テロ事件を背景に、現在のルートサーバーの運用体制がボランティア中心で、「グローバルなインターネットの責任を持った運用には不十分だ」という意見が強まってきた。ルートサーバーの運用組織とICANNとの間には明確な法的関係、契約を結ぶべきだというのが、法律の専門家たちの一致した意見で、リンCEOもそう指摘・提案している。そうすれば、国別のccTLDにも強い立場に立てるとい

しかし、現在ルートサーバーを運用する当事者の間には、こうした意見への批判が強い。多様な組織がボランティアに担



当しているからこそ、柔軟性が高く、負荷にも対応できる。この多様性こそが、緊急・障害時のリダンダンシー(余裕)を保証し、安定度を高めるというのだ。均一システムにすればするほど、リスクが高くなるという点は重要だ。

現在のICANNの役員の中で、「自律・分散・協調」という、インターネットの運用技術のエッセンスを理解している人が、実は少ないのではないかと気になる。プロトコル専門組織(POS)とアドレス専門組織(ASO)から選出された役員は技術の専門家のはずだが、微妙に違う気がする。この点は、今後のICANNの方向性について考えると、極めて重要な問題なのだ。

「政治ショー」より合理的な対話を

ガーナで感じたのは、公開の場での発言はどうしても「ショー」的色彩が強く、自分の主張の正しさを訴えることが優先され、本当の意味での「正解」を見付けるための冷静で合理的な対話にならないということだ。私も二度マイクを握ったが、今回ほど「言葉の壁」というか、言いたいことの半分しか言えないもどかしさを感じたことはなかった。大勢の人前で、短時間で言いたいことを整理して、説得力のある発言をすることは容易ではない。強い印象を残さなければならない。フィギュアスケートさながらに、演技が下手だと拍手は少

なく、採点も低くなる。ワシントンでは、「民主主義の後退」としてICANNをテーマに議会公聴会が開かれそうだ。『ウォールストリートジャーナル』紙なども、興味本位で書き始めた。ICANNはそういう「政治ショー」の場でよいのだろうか。

こうした問題意識をもとに、できればじっくり冷静に対話できる「合宿」を開こうという計画が浮上している。たぶん5月中旬、カナダになるだろう。

意思決定プロセスの不在

あらためて痛感するのは、日本に一般のインターネットの利用者が個人で自発的に

意見を発表・交流し、インターネットのポリシー問題の意思決定プロセスに参加できる場がないということだ。ICANNだけでなく、インターネット全般の利用に関する政策、料金、政府の規制など、より広い社会的課題について言えることだ。

JPNICやASOなどの関係者は、「自分たちも一般利用者の意見を聞く機会を設けている」と反論する。しかし、それと一般利用者 = 市民中心の組織とは次元が違う。「あなたの意見も参考にします」という補完的存在ではなく、より主体的な組織が必要だ。利用者中心の組織も、「専門家」の存在を否定するものではない。互いに相手の立場を尊重し、異なる機能が対等に、緊張関係と協力関係を同時に持つことが重



上:ア克拉会議の「パブリック・フォーラム」の様相(3月13日)。全役員が壇上に並び、一般参加者はフロアから発言する。  
下:カンボジアのインターネット普及水準を背景に、会員制度の重要性を指摘するノーバート・クライン氏。

## グローバルガバナンス

### 参考URL

ICANN  [www.icann.org](http://www.icann.org)  
 ICANN 会員登録  [www.icannatlarge.com](http://www.icannatlarge.com)  
 NAIS  [www.naisproject.org](http://www.naisproject.org)  
 ALSC  [www.atlargestudy.org](http://www.atlargestudy.org)

要だ。

韓国では「インターネット・ユーザーズ・フォーラム」ができ、インターネットコミュニティーに対して、利用者の立場から批判的にかかわる「ウォッチ・ドッグ」の役割を果たしている。その立ち上げには、当のインターネットコミュニティーの人々も協力しているのだ。自分たちに耳の痛い主張をする存在を持ち、それを前向きに受け止めようとする健全な姿勢こそが、これからのグローバルな「ガバナンス」の基本になるのではないだろうか。

**会津 泉** Aizu Izumi  
 アジアネットワーク研究所代表。国際大学グローバルコミュニケーションセンター(GLOCOM)主幹研究員。  
 近著『アジアからのネット革命』(岩波書店)  
 izumi@anr.org

[注1] ALSC  
 AtLarge Study Committee  
 ICANN理事会が任命した会員制度見直し委員会。政策やドメインネーム問題などの解決に向けた活動を行った。

[注2] NAIS  
 country code Top Level Domain  
 市民の視点を中心とする自発的なグループ。ICANN役員会が任命したALSCとは異なる視点での分析と主張を続けてきた。

[注3] ccTLD  
 country code Top Level Domain  
 国や地域ごとに割り当てられたトップレベルドメイン。日本を表すjpなどがこれにあたる。途上国の中には、gTLDのように誰でも取得できるようにして外貨を稼ごうとしている国もある。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)